

はぎの幸弘 県政報告

VOL.5



ご挨拶

皆様お変わりございませんでしょうか。県議会議員のはぎの幸弘です。皆様には日頃より心温まる叱咤激励を賜り、衷心より感謝申し上げます。

さて、この県政報告発刊の時期は師走も押し迫った頃になるかと思えます。年を重ねるごとに時間の経過が速くなると感じておりますが、改めて今年1年を振り返りますと元旦に発生した能登半島地震をはじめ、自然災害に苦しんだ年と言っても過言ではないと思っております。日本海側でこれだけの被害を出す地震津波が発生すること自体殆どの国民が想像していなかったのではないのでしょうか。その意味では「想定外」という言葉を使う事が無いよう、あらゆる面で十分に検討された危機管理対策を常に講じていることが何よりも重要であると痛感させられました。

政治においても私が所属する自民党会派に関係する国会議員の不祥事により、皆様の信頼を損ねた事は非常に遺憾であり、大変申し訳なく思っております。私も昨年9月に県議を拝命して以来、県議本来のやるべき責務に加え、不祥事対応の時間が非常に多かったと振り返っております。今後は一刻も早く政治への信頼を取り戻さなければなりませんし、私自身も県民の暮らしをより良くするため、そして皆様の声を1件でも多く県政に反映させるために、誠心誠意努力を重ねて参ります。

話は変わりますが、今年の遠野まつりは初日こそ雨天の中開催されたものの、2日目は早朝から激しい雨に見舞われ中止となってしまいました。これまでもまつり期間中に多少雨が降ることは何度かありましたが、中止になるのは珍しいことだと思っております。個人的には2日目に八幡宮境内で開催される流鏝馬を楽しみにしていただけに中止は残念でしたが、初日に出演された皆様や、寒い中傘を差しながら賑わいを醸し出していただいた観客の皆様、そして裏方として頑張って頂いた実行委員会等関係者の皆様には、心から「お疲れ様でした」の言葉を贈りたいと思いますし、来年は是非晴天の下で2日間盛り上がるおまつりになればと願ってやみません。

これから本格的な寒さの厳しい冬の季節に入りますが、来年の農繁期に水不足にならないためにも平年並みの降雪を期待するとともに、安心安全な道路維持対策として除雪体制を整える等、事前の準備も欠かせません。また、灯油等のエネルギーコスト抑制対策も県民の暮らしに欠かせない政策だと思っております。これら季節ごとに変わる様々な問題や課題をいち早く捉え、県民の安心安全な暮らしを守るために、議会の場でしっかりと知事・県当局と対峙して議論を重ね、実績に結び付けていくことが県議としての私の役目だと自覚し、一生懸命取り組んでまいります。

今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和6年12月吉日

岩手県議会議員 はぎの幸弘

はぎの幸弘
プロフィール

●氏名 萩野幸弘 (はぎのゆきひろ) ●生年月日 昭和37年6月16日生まれ (61歳) ●血液型 A型 ●学歴 昭和50年3月遠野小、昭和53年3月遠野中、昭和56年3月遠野高普通科卒業、本年3月に近畿短大商経科 (通信) 卒業 ●職歴 昭和56年4月遠野市役所採用、平成2年6月岩手アパレル(株)入社、平成11年9月(株)遠野 (あえりあ遠野) 開設準備室出向 (5年間勤務)、平成23年11月岩手アパレル(株)代表取締役就任 (現在に至る) ●主な経歴 遠野市防火管理者協議会会長、釜石地区法人会副会長 (遠野支部長)、釜石地域雇用開発協会理事、岩手県社会保険協会理事、遠野市議会議員 (3期12年)

岩手県議会9月定例会

令和5年度一般会計決算など48議案を認定・可決



岩手県議会9月定例会が9月25日(水)から10月25日(金)までの31日間にわたり行われました。主な内容としては、令和6年度一般会計補正予算(第3号)など33議案を原案可決、令和5年度一般会計歳入歳出決算など15件を原案認定又は意見を付して原案認定となりました。また、請願10件のうち4件が採択又は意見書を発議し関係機関に要望することとして採択、1件が継続審査、5件が不採択となりました。発議案は9件上程され、全て原案可決となりました。

令和5年度一般会計決算の状況

最終的な決算額は、歳入8,277億円余(対前年度709億円余、7.9%減)、歳出7,763億円余(対前年度695億円余、8.2%減)となりました。新型コロナウイルス感染症対策に係る財源及び事業の減少が影響しました。繰越財源を差引いた実質収支で194億円余の黒字となりました。

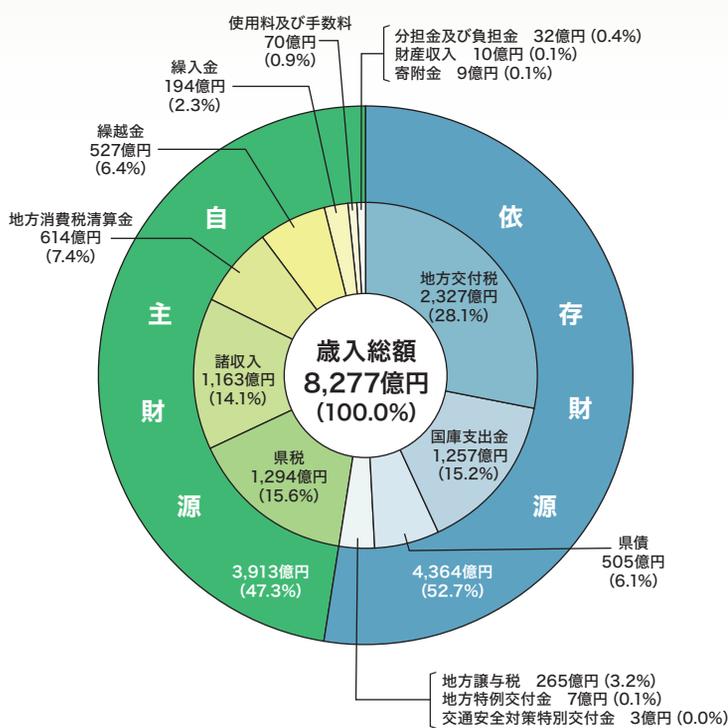
歳入決算の状況

歳入の主なものを歳入総額に占める割合で見ると、地方交付税が28.1%で最も高く、次いで県税15.6%、国庫支出金15.2%、諸収入14.1%、地方消費税清算金7.4%、繰越金6.4%となっています。

歳入総額を財源別で見ると

- 1 自主財源及び依存財源別では前年度に比べ、自主財源は187億9,212万円、4.6%、依存財源は521億2,168万円、10.7%それぞれ減少しています。歳入総額に占める割合は、自主財源が47.3%で前年度の45.6%を1.7ポイント上回り、依存財源は52.7%と前年度の54.4%を1.7ポイント下回っています。
- 2 一般財源及び特定財源別では、前年度に比べ一般財源は155億189万円、2.9%、特定財源は554億1,191万円、15.1%それぞれ減少しています。歳入総額に占める割合は、一般財源が62.4%で前年度の59.2%を3.2ポイント上回り、特定財源は37.6%と前年度の40.8%を3.2ポイント下回っています。

①自主財源、依存財源別構成比



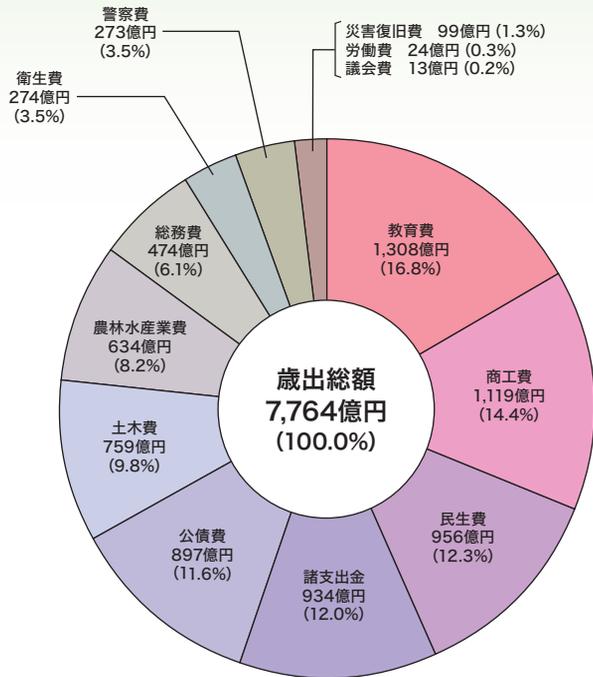
②歳入決算額の推移()内は構成比、%



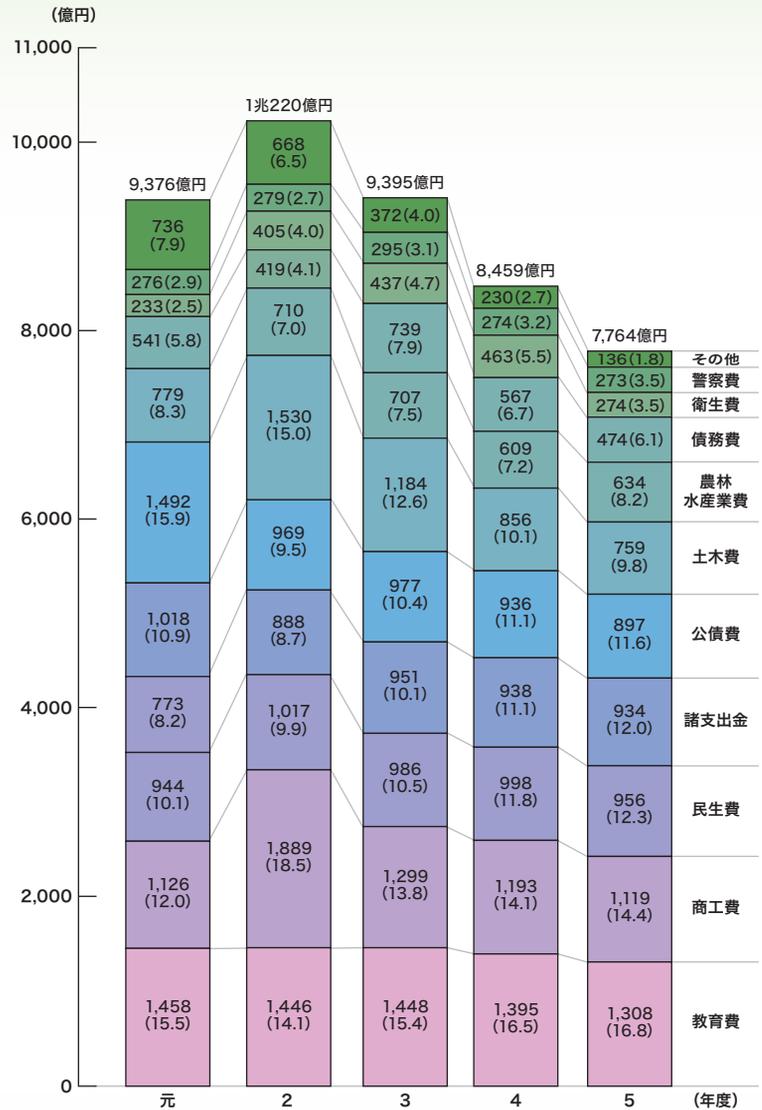
歳出決算の状況 歳出決算額を行政目的による「目的別分類」と、経費の性質による「性質別分類」によってみると次のとおりです。

- 1 目的別歳出の状況** 歳出の主なものを歳出総額に占める割合で見ると、教育費が16.8%で最も高く、次いで商工費14.4%、民生費12.3%、諸支出金12.0%、公債費11.6%となっています。
- 2 性質別経費の状況** 歳出総額に占める割合で見ると、義務的経費が2,652億円余、34.2%（前年度33.1%）、投資的経費が1,141億円余、14.7%（前年度16.0%）、その他経費が3,970億円余、51.1%（前年度50.9%）となっており、前年度に比べ、義務的経費が1.1ポイント、その他の経費が0.2ポイントそれぞれ増加し、投資的経費が1.3ポイント減少しています。投資的経費の減少は、災害復旧事業費や公共事業費の減少が影響しているためとみられます。

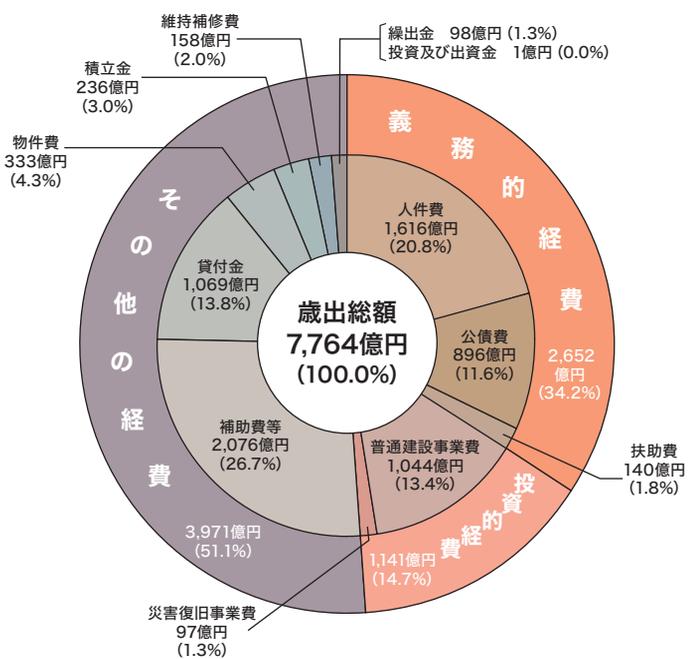
①目的別構成比



②目的別構成比の推移 ()内は構成比、%



性質別歳出決算額の構成比



翌年度繰越額の状況

繰越明許費（年度内に支出が終わらず議会の議決を経て翌年度に繰り越す見込みのもの）関係が163事業、717億円余、事故繰越（予想外のやむを得ない事由で事業執行が遅れ、年度内に支出出来ず議会の議決を得る暇がないもの）25事業、91億円余で、繰越合計は188事業808億円余となっています。これは前年度比で事業数は4事業、繰越額は40億円余それぞれ減少しています。

決算特別委員会での質問状況

今年度の決算特別委員会は10月11日（金）から23日（水）まで行われました。私は、①企業局、②教育委員会、③県土整備部、④商工労働観光部、⑤文化スポーツ部、⑥保健福祉部の審査で、大項目10点、小項目39点にわたり質問しました。尚、納得する答弁が得られない項目に関しては、12月定例会の一般質問でも再度取り上げて議論を交わしました。その詳細は次号でお示しする予定です。



その他の活動レポート 垂直型太陽光パネルとゼロカーボンパーク支援を調査

7月29日(月)から30日(火)にかけて、岩手県議会県北・沿岸復興議員連盟の事業として実施された現地調査に行ってきました。行先は北海道江別市の酪農学園大学と、新千歳市の支笏湖ビジターセンターの2か所です。参加したのは同連盟に加入している議員のうち私を含め16名と、事務局の県職員2名を含む合計18名です。同連盟は文字通り県北・沿岸地域を中心とする震災復興並びに地域振興に関する諸課題について調査研究し、復興及び振興策を提言するなど、岩手県の県北・沿岸地域を中心とする地域の発展に寄与することを目的として活動しており、私も県議として県内情報を幅広く収集し、研鑽を重ねたいと思い参加しました。尚、それぞれの調査内容は以下のとおりです。

01 大学と民間企業共同によるソーラーシェアリング実証実験の取組

7月29日(月)は、酪農学園大学で、実習用牧草地に設置された垂直型太陽光パネルを見学しました。ソーラーシェアリングとは、農地に支柱等を立てて、その上部に設置した太陽光パネルで日射量を調節し、太陽光を農業生産と発電で共有する取組で、同大学の場合は牧草の収穫と太陽光発電を同時に行う実証実験として、再生可能エネルギーの発電事業等を行う自然電力株式会社(本社・福岡市)と共同で行っています。両面受光型のため日陰になる部分が少なく、日照量を確保しながら牧草の育成や収穫が行える特徴があり、発電最大出力は約80kwで、発電した電力は大学構内で使用しているとの事です。そのほかにもパネルに雪が積もりにくいであるとか、雪の反射光や拡散光をとらえやすい設計で、積雪地域でも冬の発電量を維持できるなどの特徴があるとの事で、画期的なこの取組は積雪が多い岩手県西北部はもとより、遠野でも市営牧場などで十分活用できるのではないかと思います。



自然電力株式会社の担当者より説明を受ける



実習用牧草地の垂直型太陽光パネル



パネルの間隔は8~10m(事業説明のスライドより)



事業の説明をしていただいた
【写真右】酪農学園 教授 泉賢一氏
【写真左】自然電力株式会社 瀧口直人氏



【写真右】
パネル間を大型機械が
容易に作業できる
(事業説明のスライドより)

02 支笏湖の美しい自然環境を後世に繋げるゼロカーボンパークの取組

7月30日(火)は、環境省が国立公園の脱炭素化に向けて令和3年3月から始めた「ゼロカーボンパーク」の取組状況を学ぶため、支笏湖ビジターセンターを訪問し、全国で6番目のゼロカーボンパークに登録された支笏湖地区の取組を調査しました。ゼロカーボンパークとは、国立公園での電気自動車等の活用及び国立公園に立地する利用施設での再生可能エネルギーの活用や、地産地消等の取組により国立公園の脱炭素化を目指すとともに、脱プラスチックも含めて持続可能な観光地づくりを実現するエリアのことです。主な取組として①再生可能エネルギーの活用、②二次交通の脱炭素化(電気自転車貸出、EV充電設備の設置等)、③環境配慮型アクティビティの推進(ゴミ拾いダイビング等)などがあります。

遠野市も人口減少や高齢化により山林や里山の保全が課題となっています。支笏湖地区の取り組みを参考にしながら、私たちの故郷を守り、次代の人々に繋げるよう持続可能な地域づくりの取組を進めていかなければならないと改めて感じました。



【写真左】
支笏湖ビジターセンター内で環境省の担当者から説明を受ける(取組説明のスライドより)



【写真中央】支笏湖ビジターセンター入口での一コマ

【写真右】支笏湖ビジターセンターの屋外で説明を受ける岩手県議会県北・沿岸復興議員連盟の県議団



その他の活動レポート 県北における葉たばこ・雑穀の生産現場を調査

8月1日(木)に葉たばこ・地域特産作物振興対策議員研究会の事業として実施された現地調査に行ってきました。行先は軽米町晴山と二戸市の2か所の計3か所です。参加したのは同研究会に加入している議員のうち私を含め12名と、事務局の県職員及びたばこ耕作組合の9名を含む計21名です。同研究会は葉たばこ及び地域特産作物の生産や農家経済の実態等について調査・研究し、本県の葉たばこ及び地域特産作物の生産振興に資することを目的に活動しています。日帰りの調査・研修でしたが、机上研修では得られない体験が出来たことは有意義であり、今後の議員活動に大いに参考になりました。尚、それぞれの調査内容は以下のとおりです。

01 県内トップクラスの葉たばこ生産現場の取組

最初の調査は軽米町晴山にある神久保 岩蔵(じんくぼ いわぞう)様の葉たばこ圃場を調査しました。神久保氏は高校卒業後に就農し、20歳で父から葉たばこ事業を継承。耕作歴は56年のベテランです。経営規模は葉たばこが1か所で125アール(パイプハウス40棟、乾燥室3棟)のほか、水稻も200アール栽培しています。神久保氏と奥様の2人3脚で経営しており、収穫時のみ2人程臨時雇用しています。経営の特徴としては、ほ場を1か所に集約し管理を容易にしたほか、良質堆肥を施用し、ほ場に合わせた施肥設計、生育に合わせた適期作業を実施し、品質の保持、収量確保に取り組んでおり、県内トップクラスの成績を収めています。また、パイプハウス(乾燥施設)を充分保有することで、天候に左右されない作業体系を確立しています。更には、生分解性マルチの利用や農薬使用回数の低減を図り、環境にも配慮した葉たばこ生産に取り組んでいます。

昨今は健康志向により煙草を楽しむ場所や機会も少なくなる傾向にあります。遠野市のたばこ税は昨年度でも2億円を超えており、貴重な財源となっています。その意味では葉たばこ生産の未来を考えた場合、分煙化を徹底し、誰もが快適に暮らせる環境づくりを同時に検討することも大事ではないかと感じました。



説明する神久保岩蔵さん



葉たばこ収穫の実演をする神久保ご夫妻



葉たばこのほ場



葉たばこの特性について説明を受ける議員団



農場に入る際は靴カバーを履き、衛生面にも配慮する



葉たばこ農場に行く途中のホップ棚

02 県オリジナル品種「いわてあわこがね」の特性を学ぶ



いわてあわこがねを用いた昼食メニュー

次の調査は県オリジナルの雑穀奨励品種「いわてあわこがね」について学ぶため、昼食を兼ねた会場である二戸市金田一のカダルトラス金田一にお邪魔しました。雑穀を使ったメニューは彩も良くヘルシーで、とても美味しくいただきました(もちろん費用は実費です)。食後に県北農業研究所の担当者より座学で「いわてあわこがね」の特性等について学びました。県内には既に「ゆいこがね」というあわ品種がありますが、それに比較して自脱型コンバインでも収穫可能であり、茎も短く倒れにくい特徴があるため、2割程度増収が可能な「糯あわ」品種です。「ゆいこがね」よりも黄色味が濃く和菓子などの加工業者から高い評価を得ています。また、目の調子を整える機能性成分のルテイン含量が多く、健康志向が高まる中でも需要の増加が期待されています。更には主食用米からの転作品種としても期待されているとの事ですが、このレポートを作成している時点では米の販売単価も高騰しており、とりあえず様子見といったところではないかと思いつつ、今後に向けての検討材料としては有意義な情報でした。



試食を兼ねた昼食はもちろん自己負担



「いわてあわこがね」について説明を受ける様子



昼食メニューの説明を受ける様子

03 「いわてあわこがね」栽培の取組を現地調査



若手農業経営者の上野剛司氏



「いわてあわこがね」のほ場

最後の調査は、「いわてあわこがね」の栽培を行っている二戸市安比上野平の上野剛司（うわのつよし）氏のほ場を訪問しました。上野氏は平成19年に就農し、17年間農業に従事している43歳の若手農業経営者です。経営品目と規模は、雑穀480アール（いわてあわこがね120アール、いなきび170アール、ひえ90アール、たかきび100アール）、そば600アール、水稲620アール）です。労働力はご本人と奥様及びご両親の4人で行っており、主な施設としてハウス4棟、トラクター1台、コンバイン2台（自脱型1台、汎用1台）、雑穀乾燥機1台等を所有しています。経営の特徴として、雑穀は機械化体系を確立しており、播種～除草・培土～収穫～乾燥・調整まで、必要な機械を積極的に導入し、作業の省力化を図っています。また、地域課題である耕作放棄地の解消も視野に、地域農家から農地を借り受けることで経営規模拡大に努めています。販売先は独自で探し、現在は安定した販売先確保に成功しているとの事ですが、玄穀販売のみでなく、地元の餅加工業者と共同で雑穀を使ったおはぎの商品開発を行うなど、積極的な販路拡大に取り組んでいます。また、上野氏は農業青年クラブの会長を務められた経歴もあり、後継者育成の指導においても期待されています。国内の農業人口は年々減少の一途をたどっていますが、上野氏のような若手農業経営者が増えることで、日本の食料自給率のアップや農業景観の維持に貢献して頂ければありがたいと感じました。

そば

たかきび

ひえ

あわ

きび

白米



上野氏の説明を興味深く聞くはぎの幸弘（左側）



ほ場の状況について説明する上野剛司氏



雑草をこまめに除去しているほ場で上野氏から説明を受ける



上野氏に質問するはぎの幸弘(右端)

その他の活動レポート エネルギー分野の開発動向を調査

8月26日(月)から27日(火)にかけて、岩手県議会エネルギーを考える議員連盟の事業として実施された現地調査に行ってきました。行先は新潟県内に点在している3か所のエネルギー関連施設です。同連盟は石油、石炭、天然ガス等の火力、原子力発電、再生可能エネルギーなどのエネルギー分野について、幅広く調査、研究し、もって低炭素社会の形成に向けたエネルギー対策の推進に寄与することを目的に活動しています。昨今は太陽光や風力などの再生可能エネルギーが主流で原子力発電には否定的な風潮もありますが、今後のエネルギー政策の在り方を考えた時、コストや安定供給等、あらゆる面から総合的に捉えて考える必要があるのではないかと考えております。その意味では今回、天然ガスや水素、ガスタービン火力の3エネルギーの最先端技術を学ぶことが出来、非常に有意義な調査になりました。

01 国内最大級を誇る片貝ガス田を視察

調査初日の8月26日(月)は、新潟県小千谷市片貝町にある石油資源開発株式会社様の片貝ガス田を訪問しました。片貝ガス田は1960年に発見され、翌1961年10月に生産が開始されましたが、1978年に深部でより大規模なガス層の存在が確認され、現在は国内最大級を誇るガス田となっています。この天然ガスについて、新潟県長岡事業所管内の生産工場からは1日に140万立方メートルのガス生産が行われていますが、これだけでは規模感が分かりません。例えば1日における1世帯当たりの使用量は約1立法メートルです。これを新潟県内の全世帯数90万世帯に乗じると90万立方メートルとなりますので、140万立方メートルのガス生産量がいかに多いかが分かります。



生産施設の周囲は田園地帯となっている



石油資源開発(株)社員の方と議員連盟のメンバー

02 ブルー水素・アンモニア製造・利用一貫実証試験施設を調査

調査2日目の8月27日(火)は、新潟県柏崎市にある株式会社INPEX(インペックス)の実証試験施設を訪問しました。この施設は東柏崎ガス田平井地区に建設され、年間700トンの水素を製造します。製造された水素の一部はアンモニア製造に使用し、残りを水素発電に使用します。原料は(株)INPEXが新潟県内で生産する天然ガスで、輸送には既存のパイプラインを使用します。また、水素及びアンモニア製造の際に副次的に発生するCO2を再利用することで大気排出を抑え、安全や環境に配慮したブルー水素を製造します。



敷地内の会議室で施設の概要説明を受ける



大規模な実証試験施設の一部



株式会社INPEX社員の方と議員連盟のメンバー

03 ギネス世界記録の高い発電効率を誇る東北電力(株)上越火力発電所を調査

8月27日(火)の2か所目は、新潟県上越市にある東北電力株式会社上越火力発電所を訪問しました。この施設の発電所1号機は高い発電効率を達成し、令和5年1月にギネス世界記録「最も効率の高いコンバインドサイクル発電設備」の認定を受けました。この発電方式はガスタービンと蒸気タービンの二つの力で効率よく発電機を回すもので、燃料を節約して環境にやさしい施設となっています。また、太陽光や風力発電の急激な発電量の変動にも素早く対応し、電力の需要に合わせた発電量となるようスピーディに対応することが出来、電力の安定供給に貢献しています。



東北電力(株)の担当者から施設概要の説明を受ける



ギネス記録を持つ高効率な発電タービンをバックに記念撮影



常任委員会活動レポート

常任委員会とは、常時設置されている委員会で、県の執行機関（知事や教育委員会等の行政委員会）に対応するため5つの委員会（総務、文教、環境福祉、商工建設、農林水産）が置かれています。私は総務委員会に属し、副委員長を務めさせて頂いております。

中心市街地の賑わい創出に向けた複合商業施設「monaka (モナカ)」の取組を視察

8月6日（火）に総務委員会活動の一環として実施された現地調査に行ってきました。行先は盛岡市中ノ橋通に今年7月11日（木）オープンした「monaka (モナカ)」です。県議会棟からも程近く、委員会の他メンバーと議会事務局担当職員と共に徒歩で訪問しました。建物は地下1階、地上3階建て、地下は駐車場、1階は主に食料品を扱う「フードマルシェ」、2階は美容室や百貨、カフェなどが入る「暮らしとくつろぎのラウンジ」、3階は予備校や歯科や脳神経外科などのクリニックが入る「健康と学びのフロア」となっています。

当日は株式会社モナカの社長兼monaka支配人の大石仁雄（きみお）氏から施設の概要について説明を受け、その後施設内を見学させて頂きました。訪問時はオープンから1か月ほど経過していましたが、施設内はお客様でにぎわっており、順調な滑り出しだったようです。本市にも同じような施設として中心市街地活性化センター「とびあ」がありますが、どちらも今後引き続き賑わい溢れる施設として有効活用されることを期待しています。



【写真上】EV ホールを利用して机を並べ概要説明を伺う
 【写真右】施設概要を説明するモナカの大石社長
 【写真左】モナカの全景



Monaka (モナカ) の屋上 現在一般客は入れませんが、素晴らしい景色が広がり何らかの活用が出来ないものかと感じました

//////////////////////////////////// 今年1年を振り返り（続編） //////////////////////////////////////



冒頭のご挨拶で今年を振り返りましたが、政治の話題に更に付け加えますと、選挙の手法もインターネット上のコミュニティ（交流）サイト（SNS）を多用した戦略が選挙結果に大きく影響を及ぼす時代になってきたと実感した年でした。告示時点では劣勢でも、選挙戦が進む中でSNSの発信が瞬く間に拡散して世論を動かし、開票結果で予想を上回る得票を得たり、中には大逆転を生む結果に至った選挙もありました。私もSNSを活用した選挙戦略は確かに有効だとは思いますが、仕組みやルールがなかなか覚えられません。来年の干支は乙巳（きのとみ）ですが、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年ですので、私も来年の目標としてSNS を活用できるようになる年にしたいものです。

ご意見・ご要望など
お気軽にお寄せください

はぎの幸弘事務所

〒028-0523 岩手県遠野市中央通り5番14号
 TEL 0198 (62) 9323 FAX 0198 (66) 3233
 E-mail info@haginoyukihiro.com
<https://haginoyukihiro.com>



公式ホームページはこちら